

# 自己点検評価報告書

(令和 4 年度)

令和 5 年 7 月報告

名古屋総合美容専門学校

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	5	4	3	2
B 学校における職業教育の特色は何か	5	4	3	2	1
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	5	4	3	2	1
D 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	5	4	3	2	1
E 学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	5	4	3	2	1

<現状>

A：学校の理念・目的等については学則に「社会に立ち得る優秀な美容師を養成することを目的とする」記載されている。

B：個性を伸ばす教育に特化し、学校創始者による「芸は人なり」をモットーに少人数制授業を実践している。

C：本校は学費を抑えた美容専門学校で学費を自分自身で支払っている生徒も多く在籍している。また学校名から美容を総合的に学ぶ専門学校として、就職先として美容室だけではなく、ネイルサロン、ブライダルサロン等幅広く美容業界で活躍できる人材を輩出している。

D：Aで指摘した内容については体験入学や学校見学時、また入学後は様々なオリエンテーションにて説明を行うが、学生・保護者に周知徹底されているレベルまでは達していない。

E：名古屋総合美容専門学校では創立64年の歴史から美容業界の様々なシーンで活躍する卒業生より美容業界のニーズについて常に新しい情報を仕入れている。教育目標・育成人材像も常に更新作業を行っている。

(2) 学校運営

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	5	4	3	2
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	5	4	3	2	1
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	5	4	3	2	1
D 人事、給与に関する規定等は整備されているか	5	4	3	2	1
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	5	4	3	2	1
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	5	4	3	2	1
G 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	5	4	3	2	1
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：学校として目的に沿った運営方針が策定されているが、全スタッフで共有するには至っていない

B：事業計画は毎年策定されている。しかしながらこれも全スタッフ間で共有されていない。

C：運営組織、意思決定機能は理事会・評議員会を中心に有効に機能している。

D：外部・税理士法人ブレインパートナーの指導により、規定等は整備されている。

E：理事会・評議員会を中心に意思決定システムが整備されている。

F：美容業界に対しては常に情報を共有しながら運用できているが、地域社会に対してはまだまだ情報提供体制が脆弱である。

G：在校生に対しては郵便等により情報を出来るだけ公開しているが、今後はホームページ等も使用して公開していく必要がある。

H：校内情報システムは安定しておらず、業務の効率化は今後の課題である。

## (3) 教育活動

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	5	4	3	2
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	5	4	3	2	1
C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	5	4	3	2	1
D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	5	4	3	2	1
E 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	5	4	3	2	1
F 授業評価の実施・評価体制はあるか	5	4	3	2	1
G 職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	5	4	3	2	1
H 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確化になっているか	5	4	3	2	1
I 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体型的な位置づけはあるか	5	4	3	2	1
J 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5	4	3	2	1
K 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	5	4	3	2	1
L 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	5	4	3	2	1
M 職員の能力開発のための研修等が行われているか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：教育課程の編成・実施方針については毎年チェックを繰り返しながら丁寧な計画が策定されている。

B：教育到達レベル、学習時間等の確保については十分に明確にされている。

C：学科カリキュラムは毎年スタッフによりチェックされ毎年フレキシブルに編成されている。

D：キャリア教育についてはまだまだ実践できておらず、今後の喫緊の課題である。

E：本校ではインターンシップ実施に反対意見が強く実施できていない。今後はより実践的な職業教育を計画していく必要がある。

F：授業評価は適切に実施され、評価している。

G：職業教育等に対する外部関係者からの評価は現在のところ取り入れていない。

H：成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準については非常に明確化している。

I：美容にまつわる様々な資格取得に関する指導体制等について体系的な位置づけができていると判断できる。

J：本校教員においては外部講師による授業を受講したり、セミナー等への出席を求めているがまだ目標に達していない。

K：平成30年度以降、積極的な採用を行い、優れた教員を確保ができていると判断できる。

L：Jでの指摘と重複するが、教員の指導力育成に力を入れているが、まだ目標には達していない。

M：事務職員についても外部講師による講義受講、ビジネスマナー講習等受講するよう今後能力開発に力を入れていく。

(4) 学修成果

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 就職率の向上が図られているか	5	4	3	2
B 資格取得率の向上が図られているか	5	4	3	2	1
C 退学率の低減が図られているか	5	4	3	2	1
D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5	4	3	2	1
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：就職については専門課程では2年生進級後、高等課程では3年生進級後から活動をはじめ、美容師国家試験受験前には90%を超える生徒が就職内定を決めている。就職率は年々向上していると判断できる。

B：美容師国家試験合格率の向上については実技・筆記両面ともに日々研究を重ねている。年々取得率は向上しているが、全国平均を下回るケースも見受けられまだまだ満足できるレベルではない。

C：生徒退学率については教員による生徒カウンセリング、事務局による生徒インタビューなど生徒の不安解消に役立っていると思われるが、家庭内の事情による退学者は毎年一定数出ており、今後はより細かくケアをしていく必要がある。

D：卒業生においては一定期間連絡を密に取りながら美容人としての活躍・勤務先などを把握し、評価を行っている。在校生についてはCの指摘と重複するが生徒インタビュー等を通して評価している。

E：卒業生からの情報を基に、学校教育活動のより良い改善に生かされていると判断できる。

(5) 学生支援

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	5	4	3	2
B 学生相談に関する体制は整備されているか	5	4	3	2	1
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	5	4	3	2	1
D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5	4	3	2	1
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか	5	4	3	2	1
F 学生の学内生活環境への支援は行われているか	5	4	3	2	1
G 保護者と適切に連携しているか	5	4	3	2	1
H 卒業生への支援体制はあるか	5	4	3	2	1
I 在校生への留学支援体制はあるか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：進路・就職に関しては学校長を中心に支援体制は整備されている。

B：学生からの相談に関しては事務局を中心に整備されている。

C：学生に対する経済的な支援に関しては整備されていないが学費の分納・延納については幅広く認めている。

D：学生の健康管理については組織体制は認められない。

E：課外活動については教員を中心に支援体制が整備されている。

F：学内生活環境への支援については事務局により生徒インタビューが実施されており、幅広く支援されている。

G：保護者とは電話連絡以外にも LINE 連絡ができる体制をとっている。

H：卒業生に対する支援は実施できていない。 I：在校生への留学支援については資料提供などにとどまっている。

(6) 教育環境

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	4	3	2
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	5	4	3	2	1
C 防災に対する体制は整備されているか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：真新しいものはないが、教育上の必要性に十分対応できるよう整備している。また不足や補修の必要がある場合も速やかに整備できている。

B：インターンシップについては、まだまだ消極的なため幅広い美容室にお願いをして実施していきたい。海外研修等については実施していない。

C：株式会社能美防災による指導、名古屋中消防署による指導により防災に対する体制は非常に整備されている。しかしながら避難訓練が実施しているものの非常に弱いので有意義なものにしていきたい。



(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 学生募集活動は、適正に行われているか	5	4	3	2
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5	4	3	2	1
C 学納金は妥当なものとなっているか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：少ないスタッフによる積極的な生徒募集が行われている。生徒数は募集定員を満たしていないが、適正に活動が行われ、また非常にクリーンな募集活動が実施できていると判断できる。

B：良い点も悪い点も包み隠さずに伝えることができている。学費・国家試験合格率・在籍者数など様々な数値もごまかすことなく正確に伝えられている。

C：学納金の設定については妥当で安価なものとなっている。消費税の値上げ等により教材費に転嫁すべきとの声があるが、低学費が学生には受け入れられていると感じている。

(8) 財務

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	4	3	2
B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	4	3	2	1
C 財務について会計監査が適正に行われているか	5	4	3	2	1
D 財務情報公開の体制設備はできているか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：現在のところ、無借金経営を続けている。しかしながら、今後は老朽化した校舎の補修等が必要になってくるため、より強固に財務基盤の安定を目指していきたい。

B：10年前までの生徒獲得重視の予算から、よりスリムな予算に変わり収支計画も非常に有効に働くものになってきている。

C：財務に関しては税理士法人ブレインパートナーの指導も仰ぎながら適正なる会計監査が行われている。

D：財務情報公開については、理事の中に「公開は小規模校のデメリットしかない」との声があり公開には消極的だったが、話し合いを重ね、今後は積極的な公開に踏み切るべきとの判断に変わった。

(9) 法令等の順守

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	5	4	3	2
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5	4	3	2	1
C 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5	4	3	2	1
D 自己評価結果を公開しているか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：専修学校設置基準等の順守に関しては、理事会・評議員会、また事務局を含めて定期的に順守されているか確認している。また関連法令等の更新も遅滞なく反映できている。

B：事務局においては個人情報の取扱いについて厳しく守っている。また虐待・DV等が発生している情報については速やかに事務局から教職員全体へ波及され、情報の漏洩がないよう徹底している。

C：自己評価の実施結果についてすみやかに公表されていない。問題点の改善に時間がかかっている点が今後の課題となっている。

D：今までは公開していなかったが、今後は速やかに公開していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…5 ほぼ適切…4 普通…3 やや不適切…2 不適切…1				
	A 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	5	4	3	2
B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	4	3	2	1
C 地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか	5	4	3	2	1

<現状説明>

A：学校施設を使用した社会貢献についてはまだ不足している。今後は地域に密着した美容専門学校として貢献していきたい。

B：学生のボランティア活動については奨励しているが、本校には支援体制が不十分であると考えている。今後は金銭的な支援・教育的な支援ともに充実させていく必要があると考えている。

C：付近住民に対するヘアアレンジ講座・ネイル講座・セルフメイクアップ講座など企画立案したが、令和元年度は実施できなかった。今後はより積極的な公開講座を実施していきたい。